



かなであん

249-0002 逗子市山の根1-7-24

Tel : 046-871-1863 Fax : 046-872-3485

http:// kanadean.net mail:kanadean@mac.com

方便

世間を賑わす答弁、謝罪会見に、決して真実解明に向かうものではなく、ますます真実から遠のいていく「言い逃れ」であると気づかされます。そこで都合よく使われる「忖度」や「乖離」を、「嘘も方便」、嘘はよいことではないが、物事を円満に収めるためにときには必要くらいのとらえ方が、それを許す社会になっているのでしょうか。

* * *

方便とは仏教の教えを伝えるための立派なはたらきを意味するものです。それは「近づく」「到達する」「巧みなてだて」「便宜的な手段や方法」という仏のはたらきをいう言葉で、決して嘘、偽り、言い逃れ、言い訳ではありません。

私たち衆生を覚り（真理）へと導くため仏が「てだて」として用いる衆生教化の方法であり、「方便」は、決して一様ではない私たち人間の性質や能力、誰にも避けられない老・病・死も、受ける時期、順番、そのときの条件や環境に違いがあって、そのような人それぞれに添って教え導こうとする仏の智が「方便智」、またそのはたらきを「善巧（ぜんぎょう）方便」といいます。本来、色形もない仏の智慧）というものを、私たちにわ

かりやすい形相や言葉ではたらしき出て下さっている姿が、私たちが礼拝の対象とする阿弥陀仏のご絵像やお木像、そして「南無阿弥陀仏」のお名号です。

そのことを親鸞聖人は、こう述べられています。

「方便ともうすは、かたちをあらわし、御名（みな）をしめして衆生にしらしめたまうをもうすなり。すなわち阿弥陀仏なり。この如来は光なり。光明は智慧なり。智慧はひかりのかたちなり」『一念多念文意』

方便は、真実そのもののはたらきです。阿弥陀仏も、南無阿弥陀仏のお念仏も、私たちを真実の世界にいたらしめようとしてあらわされた仏そのものだと親鸞聖人は味あわれています。

* * *

この方便は、今私たちの生きる世間にはたらく仏として、世間の闇を破って真理の世界にいたらしめるために、私たちに理解できる形や行い、言葉となって現れて下さっているのです。

しかし、私たちの迷いの目には、たとえの姿を見ることができ、手を合わせることはできても、仏が教えようとして下さっている真理の目覚めへの導きと、一人残らず救う大慈悲心に気づくことは大変難しいのです。

そのことに気づかせてくれるのが、私につながる身近な仏となられた方々です。

先に亡くなられた方々は皆仏となって仏の教えを知るご縁を結んで下さっています。それも「気づいてくれよ」とはたらしき続けて下さっている「方便」です。私たちはその仏縁に導かれながら、時機が熟したときにはじめて、その「方便」が「私のためのはたらきだった」と領けるのです。

* * *

一人もらさず仏（悟りの世界への導き）にすると願い、その願いがかなわぬなら私も仏に成らないとまで誓われ、その衆生済度の目的のために存在する阿弥陀仏は、「迷いの闇を破るかぎりなき智慧（光明無量）」と「迷いの人々を悟りへ導こうとする永遠なる慈悲（寿命無量）」の方便法身のお姿です。

「方便」は私たちを迷いから目覚めさせる善知識です。

そのおかげによっていたり届けられたお念仏のみ教えに、今生かされて生きる私たちは、目に見えるお姿を通して、また聞くことのできるお念仏「南無阿弥陀仏」を通して、罪業深重の我が身を知り、真実の世界にしっかりと目を開いて歩む念仏者でありたいと思います。

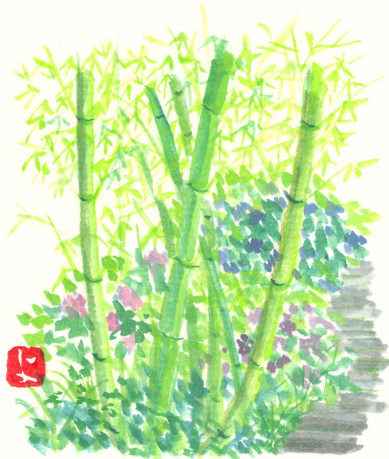
奏庵法座

日時
6月26日(火)
午前11時～

「真宗宗歌」
正信偈
法話
ご文章拝読
「恩徳讃」
～*～
おとき

梅雨に入り、洗濯物や気温の変化に悩まされる日々ですが、雨に洗われた草木の輝きや、美しさを増す紫陽花の色に、梅雨という季節が必要なことを感じます。仏教のこの時季は、屋内で勉学に励む修行、安居として続けられています。私たちにできる学びは、その折々に恵まれてある生命のつながりとそのおかげを、共に味わいよるこぶことではないでしょうか。

足元に気をつけて、ゆっくりお参り下さい。



300号!

月毎にご家庭にお参りさせていただき習慣が急速に薄れていく時代に、少しでも仏教の教えにふれ、親鸞聖人のみ教えを身近に感じていただくご縁になればとの思いでお届けしている寺報「かなであん」が300号を迎えました。

「いつも読んでいますよ」というおことばや、「切手代に…」とのお心遣い、拙い法話や独断に満ちた編集後記にも、「楽しみです」と寛容なお心でお読み下さる皆さまのお励ましのおかげと心よりありがたく御礼申し上げます。

何らかのご縁をいただいた方々に送らせていただいておりますが、もし必要でない方、またお知り合いでご希望の方がおられましたら、ご遠慮なくご一報いただければ幸いに存じます。

これからもできる間は続けていく所存です。どうぞご笑読下さい。

寺よりの便り田渋の手で開く
(琴女)

元龍溪寺婦人会々長の句

お盆のお参り

夏の訪れとともに、今年もお盆が近づいてまいります。

仏事の中でもお盆は地域色が強い仏教習慣です。特に地方から集まれた首都圏では、自分の中に育まれた郷愁によってお盆を勤められる場合が多く、奏庵では7月、8月の新旧両お盆にお参りしています。ご家庭へのお参り、庵でのお参りのご依頼は、お早めにご連絡下さい。

編集後記

「男らしさ」とか「女らしさ」のような、「らしさ」を決めつけてはいけなくなる時代だが、それぞれの立場を象徴する人たちに「ふさわしさ」は問われていいのじゃないかと思う。■教育を象徴する人なら、やはりアカデミックなものが感じられてほしいし、政治家なら、清廉さに頼もしさがあってほしい。そして自分を含め宗教者には、少し浮世離れた変人くらいを求めたいが、どの分野も経済至上に毒されているようでさみしい。■「稼げる」を最優先に職を選べば、志や誇りが伴わないまま、ますます経済至上に縛られ、格差と不満を募らせる。そして、生命そのものを支える職人、農家、漁師、技術者、哲学や真の宗教などの分野が軽んじられ先細りしていくのが心配だ。■人生の目的は生きることだから、「人が生きる」と書いたはずなのに、今はそれを「しんどく」する条件をつける。それがほぼ、お金や物の物質的充足、外観や肩書で、それが満たされなければ、「幸せではなく、存在価値はない」という思いは強迫観念に近く、「幸せ」という概念そのものが生き辛くする原因になっている。無差別に人を殺める犯人らに見られるような自分も否定は謙虚なのではない。特別になりたいのに成れないという周りへの恨みと甘えが生む心の歪みゆえの自己否定だと感じる。■人間と動物の違いは、次々と煩惱がおこり「よけいなこと」をする生きものだという点で、それが「苦」であり、だから宗教が必要なのだと言われる所以だが、その宗教にも目に見える利益を求め、その結果が、富を得るだけでは満たされない、人に認められたいがための「いらぬこと」を招ぶ。■絵に描いたような自慢の家族、学歴、仕事、人間関係、老後、幸せな死に方…へのこだわりは、自分にもまわりにもストレスを与える。人として「ふさわしい」生き方、それは与えられたいのちを相応とし、その道において出来る本分を尽くし、粛々と生きて、苦しみ悲しみから解放され終えていく。この生き方の簡単そうで難しいことを、色々な出来事が「我がごと」と教えてくれている。Norimaru